

Japan Blue



藍染工房
相愛藍

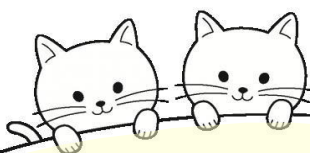
I love ai

相見に根差し、

藍色に魅せられ、

藍染を愛する工房

主宰 森下愛子



“藍染め”とは、植物染料の藍を用いた染物です。

藍は、飛鳥～奈良時代に中国から日本に伝わり庶民生活に根付いていき、江戸～明治時代には多くの人が“藍染め”の衣服を身に着けていました。藍には防虫や抗菌効果があるとされ、肌着や蚊帳にも用いられました。

タデ藍というタデ科の植物の葉を発酵させ「すくも」という染料にし、「天然灰汁発酵建て」によって染める日本独特の伝統的な技法です。現在では、化学合成したインディゴ染料を使うことが一般的です。

また‘JAPAN BLUE’と呼ばれる藍は、色の濃さによって様々な呼び方があります。江戸期に文化の爛熟期を向かえ、藍四十八色と言われるように色の名前も一気に増えました。代表的な色を紹介します。

瓶覗き
(かめのぞき)

淡い青色を指す色名でやわらかい緑みの青。少し漬けて染めた淡い色のため、「ちょっと瓶を覗いた程度」という意味から「瓶覗き」と呼ばれる。

浅葱色
(あさぎいろ)

ネギ葉のような緑がかった青。江戸時代、地方から江戸にきた侍が羽織の裏地にこの色をよく使ったから浅葱侍と呼ばれた。

納戸色
(なんどいろ)

近世の代表的な藍染めの色。納戸の幕の色や暗さが由来となった。微妙に色が違う、藤納戸、鉄納戸、錆納戸等がある。

縹色
(はなだいろ)

古くから知られた藍染めの色。藍染の色は薄い方から、浅葱、縹、藍、紺と呼ぶのが一般的です。

濃藍
(こいあい)

藍染の中でも最も濃い色の一つで、僅かに紫がかっている暗い青を指し、藍色系統では最も深いとされている色です。

紺色
(こんいろ)

藍染めの濃い色で、極めて暗い藍色のことです。「こあい」とも読まれる藍色と紫紺の間にあります。

勝色
(かついろ)

もっと染めて、黒色に見えるほどの暗い藍色のことです。鎌倉時代に武士の服や武器を黒色(かちいろ)で染め勝ち戦の縁起を担いだ。